

# 中国では「耄」になると 社会的責任がなくなる

陳 舜臣〈作家〉 多田 智満子〈詩人〉



「敬老精神は中国よりも韓国の方が強いですよ」陳 舜臣さん

に中央市民病院の岡本道雄さんもこの方は京都大学の前学長だったんですが、私の家の前を通って六甲学院まで、朝早くからジョギングをしておられる。「あんた、まだ寝てるやろ」と言われた（笑）。多田 今は北海道にいる息子も、あの辺をよくジョギングをしていました。

ところで陳先生は最近、どこかへご旅行をされました？

陳 ええ、一昨年はNHKの「シルクロード」の取材で、イランとトルコへ行きました。

多田 それは素晴らしい所へ行かれましたねえ。

陳 ところが酒が飲めないんですよ（笑）。イランは非常に厳しい禁酒国なんです。

多田 日本からウイスキーを持ち込むのもダメですか。陳 全然ダメです。税関の検査がとて厳しい。スーツケースの中の背広の内ポケットまで調べるんですよ。

多田 同じイスラム圏でもエジプトならビールぐらいは

イランは「アルコール度ゼロ」の国

多田 陳先生は六甲の山手にお住まいですが、私も護国神社の近くです。六甲界わいには作家とか学者が多いですね。

陳 大阪フィルの朝比奈 隆さんもいらっしゃる。それ

飲めますね。

陳 イランでも一年ぐらい前までは外国人ならホテルでビールを飲むぐらいは構わなかったのですが、今は全然ダメです。「イスラミックビール」って、ビールみたいなものはあるのですが、アルコール度はゼロ（笑）。カラメルで色をつけている。泡がちよいと立つだけ（笑）。

多田 アメリカには昔、禁酒時代があって、ずい分と密造酒が盛んだったようですが、イスラムではどうですか。陳 やるんですよ。家に瓶が置いてあって、何をやっているのかと聞くと、酢をつくっていると言う。酢になる前に酒になるんですよ（笑）。捕ったらムチ打ち八十です。外国人でもムチ打ち八十。それを三回繰り返すと死刑になります。子供だとムチで十回も打つと死ぬと言いますね。

多田 それは大変な刑なんですねえ。

ところで、陳先生が読売新聞に連載されている小説、「曼陀羅の人」を面白く読ませていただいているのですが、本当に興味津々たる作品ですね。



「昔の中国は長老政治だという感じがしますね」多田智満子さん

陳 そうですか（笑）。空海の生涯の二年足らずだけをとりあげているんです。唐へ行ったときのことです。

多田 あれは陳先生でないと書けない題材でしょう。私は唐の事情など何も知らないの、とても面白く読ませていただいています。

陳 空海は、ちよっと異常なときに唐へ行っているんです（八〇四年／八〇六年）。皇帝側近の王叔文が実権を握っていたほんの短い間です。皇太子の碁の指南をやっていた人が権力を握ったわけですね。ところが、そういう人の方が庶民の痛みが分っている。そこに矛盾があるわけです。

#### 杜甫の詩は科挙の試験の参考書

多田 中国には科挙の制度がありました、いろんな地方から秀才を集めるのに意義があったんでしょうね。

陳 そうですね。六朝までの貴族社会では、日本と同じで門閥によって登用をしていました。それが、隋が天下を統一した頃から貴族社会が崩壊した。別の登用方法を考えないといけないとき、試験という方法が一番いいわけですね。科挙の試験は暗記の種目ですから、それが出来る階層は限られて来ますね。朝から晩まで働いて、しかも電氣のない時代ですからね。

多田 今の眼から見ると著しく科目が片寄っていると言いますか、そういう感じがしますね。こういう文学的なことに才能のある人が果たして政治家としてはどうなのか、と言う感じがしまして。

陳 詩をつくるわけですが、中国の詩は律詩と言いまして、対句にしないといけない規則がありますね。だからバランス感覚はあった



のじゃないですか。杜甫は律詩のうまい人でしたから、科挙の参考書としてよく読まれたのかも分りませんね(笑) 多田 でも、やはり大政治家で大詩人という人はいないようだし、どっちなかですね。

陳 大政治家で大詩人というのは三国志の魏の始祖である曹操ぐらいですね。

多田 詩の才と政治の才は、ある程度は重なるところがあるのかも分りませんね。

陳 ただ「詩経」の解釈も時代によってずい分と違うわけです。完全な恋愛詩なのに、あれは賢人を慕う詩であるとか解釈してしまう(笑)。それを是正したのが朱子ですね。

断片しか残らなかった中国の神話

多田 私、この頃、神話にちよつと凝っていましたね。

中国の神話はよく知らないのですが、「山海経」とか、ああいう奇妙な本を読み漁っているんですよ。

陳 「山海経」は、現存するのは断片ですね。魯迅が好きたったんですよ。

多田 本当に面白いことが書いてあります。中国人は実際の常識的と言うか、プラクティカルな人間だと言われますが、ああいう本を読むと、とんでもないという感じがしますね。何て言いますか、道教の伝統といいますが、道教は現実の彼方へ、幻想の方へのめりこんで行くという傾向がありますから。

陳 中国の神話には体系がないんですね。それは初めか

らなかったんじゃないかって、あったのがなくなっただけです。神話とは、一つの国の成り立ちを説明するものでしょう。だから殷の時代には、殷の成り立ちを説明した神話があったんですが、周の時代になると自国の神話を創って、殷の神話は棄てられますね。ただ、ところどころは残る。周が亡びると秦の神話が生まれる。だから体系なく残っているんですね。

多田 私もそう思います。神々の世界にも人間の世界と同じように政権交代があり、それはギリシア神話にもありますね。初めに土着の民族の神話があって、あとからバルカン半島の北部からいわゆるギリシア人が南下して来て、自分たちの神々を立てる。そういう神々の興亡が、神々の世代の交代として、きちんと神話の中に反映されていますね。中国の神話の場合は、それがつき崩された形のままで残って、あとで神々の系譜がまとめられなかったという恨みがありますね。

陳 そうですね。秦の始皇帝以降はラジカルな世界になつてしましますね。最早神話を必要としない時代です。

マルコ・ポーロは「色目人」

多田 陳先生の「曼陀羅の人」に出ていますように、長安にはずい分といろんな宗教のお寺があったんですね。

陳 ゴロアスター教(拝火教)も来たり、マニ教も来ていましたし、イスラム教やキリスト教も来ていましたね。だから非常に国際的な宗教関係の中にあっただんですね。

多田 寛容に受け入れていたんですね。



陳 そうですね、その当時は。

多田 一番主流だったのは何ですか。

陳 仏教ですね。だから漢の武帝の排仏運動は、排仏だけじゃないんです。道教に凝った皇帝が、道教以外の宗教を弾圧したんです。仏教だろうが、ゾロアスター教だろうが、全部を弾圧したんです。

多田 松本清張さんは、日本にゾロアスター教が入っていたとおっしゃっていますね。

陳 ええ。二月堂のお水取りはゾロアスター教の風習だと言うんですが、やはり、人間である限りは自然を崇拜するのは当然だし、とくに火というものは有難いものだから、尊ぶのは何もゾロアスター教に限らないですね。古代史については資料が少ないですから何を言っても構わない（笑）というところがありますね。

多田 だから割と素人の方々が研究されていますね。

陳 耶馬台国にしても「魏志倭人伝」に何行かの記述があるだけですからね、根本資料は。それをどう解釈するかの問題ですね。もっと古い資料が出て来たら解決するかも分らない。それが出て来る可能性はあると思います。トルファンからも三国の資料が出て来たのですが、残念ながら呉が出て来て、魏はなかった。それが出来れば耶馬「臺」国か、耶馬「壹」国かがハッキリする。私は耶馬臺国が正しい、壹は誤りだと思っています。

多田 耶馬台国は九州か、大和かということで、カンカンガクガクで争っていますね。

陳 魏の鏡が発掘されるというのが、大和派の根拠です。



卑弥呼の使者が魏へ行って貰って来るといふ記録があるんです。鏡は近畿からばかり出て、九州からは出ない。ところが、この頃はもうもあれば日本で造ったということになっている。周囲にギザギザのある鏡は中国では出て来ないんです。一枚も出ていないんです。

多田 その頃には日本でも鑄造技術が発達していたんですね。

陳 うん、うまいものですよ。

多田 日本人は真似が上手ですから。

陳 それは日本だけに限らないで、ツングース系の人はみんなうまいですね。

多田 日本人ってツングース系ですか。

陳 いろいろ混っていますけれど、支配的なのはツングース系じゃないですか。

多田 やはり騎馬民族……。

陳 ではないですね。モンゴルは騎馬民族ですが、ツングースはどちらかと言うと狩猟民族ですね。狩り場があるので、あっちこっちと動いたりしますが、遊牧民族に比べて定着性があります。

多田 中国で遊牧民と言うと、元ですか。

陳 ええ、元です。

多田 元のように遊牧民族として走り回っていたのが、王朝として定着すると言うのは、どういふんでしょうね。陳 権力を持って定着するんですが、農耕を非常に軽蔑する。中国文化に同化されないわけです。さらに実務能力、国家経営力がない。それを色目人にやらせた。色目人とはイラン人とかトルコ人のことですね。

多田 “色目” っていう意味なんですか。

陳 いろんな人という意味です。その人たちに権力を与えた。代官をやらせたわけです。イラン人などには経済観念、実務能力がありますからね。マルコ・ポーロも、彼はイタリア人ですが、色目人の一人です。

親の前では禁煙 “禁メガネ”

多田 漢時代のことを書いた本を少し読んだのですが、中国人は晩成と言いますか、一人前になるのが遅いなあと思っただけです。官吏になる士大夫階級の人たちが官職につくのが、ものすごく遅いんですね。

陳 漢の時代の官職のつけ方は、一年間に二人、地方長官に推せんさせるんです。これは義務です。

多田 二十代や三十代の働きざかりのときには家において親に孝養を尽くしたり、友人たちと交際をして、官職につくのは四十ぐらいだと書いてありました。

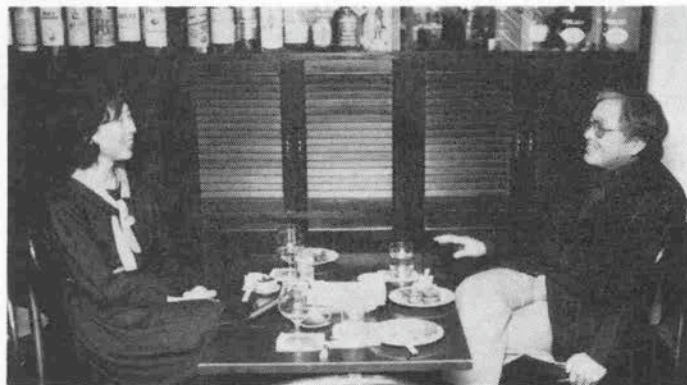
陳 もっと年がいって七十ぐらいの人もおりますよ。

多田 まあ、どうしてなんでしょか。

陳 結局、地方官に推せんの義務があるので、変な人を推せんしたら、その人の罰点になるんです。血気にはやる若い人を推せんして、問題を起されると責任をとられる。だから年とって辛抱強い人を推せんすることになるんです（笑）。

多田 長老政治だという感じがしますね。

陳 そうですね。ただ將軍だけは年が若い。大い皇帝



中国の歴史を遡って対話はつづく

の外戚ですね。皇后の弟とかね。

多田 中国には年寄りの段階が、“耆”とか“老”とか“耄”とか何段階もあって、“耄”（八十歳くらい）になると社会的責任を問われなくなるんだそうですね。

陳 存在そのものが値打ちになるんです多田 本当に敬老精神がさかんなのですね。“老”という字に非常に敬意がこもっていますでしょ。

陳 古い友達には年齢に関係なく老をつけますね。たとえば、非常に親しい李さんなら“老李”と呼ぶ。

多田 “西遊記”の中に、孫悟空が自分のことを“老外公”、お爺様だぞと言っているところがありました。

陳 身分が上だと言うことです。

多田 ジェネレーションが上だと言うことは、無条件にえらいと言うことですね。

陳 それは絶対的なことです。

多田 韓国も敬老精神は強いようですが中国よりも、伝えられた韓国の方ですね。お父さんの前ではタバコを喫わないですよ。

多田 そうなんですってね。親の前では、こそこそと手でかくしてタバコを喫っているって、私の主人がびっくりしていました。

陳 今ではこういうことは余りないですが、厳格な家ではお父さんの前でメガネを外しますよ。

多田 メガネも失礼ということなのですか。

陳 そうなんです。つまり、親が五体満足に生んでくれたので、眼を悪くしても、五体満足ですということ、親の前ではメガネを外すんです。

多田 本当ですか。今の日本なんか少しは見習った方がいいみたいですね（笑）。

（六甲坂道）にて



私達『壁の穴』のスタッフは、

「サービスを計るものさしは、ない」

と考えております。

お客様のどんな御要望にも、お答えできる

そんなサービスを心掛けております。

もし?「ものさし」があるとすれば、

それは、きっと、endlessなものになるでしょう。

spaghettiを通して、私達の真心も御試食下さい。

お待ちいたしております。

東京・渋谷 スパゲティ専門店



壁の穴

三宮店 中央区三宮町1-5 サンロイヤル神戸10F(さんプラザ) TEL 078-332-4551 営業時間11AM~9PM 第1・3月曜休





新 光 江  
絵 / 辻 司

母は何時も忙しかった。我慢出来ない程空腹になると、私は何時も母が仕事をしている美容室のドアをあけた。

「先に食べていい？」

「いいわよ」

母は振り向きもせず返事をする。そして顎を引き、お客の髪を巻きつづける。私は台所にもどり、小さな鍋を二つ、コンロにかける。

「お湯が沸いたけど、お母さんのラーメンも作ったげようか」

「今、手がはなせないから、かおる一人で食べなさい。

お母さんのはいいわ」

「済みませんねえ」

お客が気を使って母に謝っている。

「いいえ、いいんですよ、それより奥様こそ、お腹が空いたんじゃないですか。すみませんねえ。もうぢきですから」

そんな母の声を聞きながら私は一人でラーメンを食べる。私の家には時計はいらなかったのだ。整理箆箭の上の、青い目覚し時計は、朝、学校に行く時しか、必要がなかった。だのに、私も母も、その時計が一分遅れても進んでも気になった。今、それを思うとおかしくなる。何時見ても母の腕は動いていた。缺が光るとまるで魔

法にかかったように髪がこぼれる。肩を滑り下り、床に散らばる。床に落ちた途端に髪は光を失い、垢まみれによごれ果てる。缺の、あの冷たい光りが髪を吸い取るのだろうか。

「かおる掃除をして頂戴」

母はよく私にそう言った。床に散らばった髪を私は不器用に集めはじめ。汚なくて、そして魔物のように不気味な髪が床を滑って逃げる。母は何時も私に背を向けていた。私に返事をする時でさえ、母の目は鏡の中のお客に向いていた。櫛を指にはさみ、お客の髪に手をそえたまま、母は返事をする。

「かおる、宿題はすんだの？」

何時頃からそうするようになったのか風呂上りにかならず天花粉をはたく私を、洋は何時も不思議がった。

「それ、赤ん坊につけるものなんだろう？」

「そうよ。赤ん坊のおムツかぶれにつけるの」

洋は呆れ、声を上げて笑う。鏡に向かい私は思いきりたっぷりと天花粉を胸もとにはたきこむ。サラサラと乾いた、清潔な香りが私を一杯にする。天花粉の香りは何時も私に故里の夏の夕暮れを思い出させた。夕星が光りはじめると、町は水の景色に姿を変え。空も、風も、しっとり水の色に沈んだ町を、子供達が通りすぎる。サ

ツバリと浴衣に着かえ、両親に手を引かれて歩いてゆく。あれは盆の灯籠流しの夜だったのだろうか。私はよく家の戸口で、そんな光景を見ていた。子供達が通りすぎたあとの道を、かすかに天花粉の香りが流れていた。風呂上りの火照った肌を、その子のお母さんは、大きなバスタオルでくるみ、何度も優しく拭いたにちがいない。

「さ、天花粉をつけなくっちゃ」

子供の背中で蝶結びに結んだ兵児帯がはね上がる。両親に手を引かれた子供が、天花粉の香りを残して遠ざかって行ったトンネルのような夏の町筋。天花粉をはたきながら、私は何時もそんな光景を憶い出す。洋にこんな私の心がわかったのだろうか。父のない娘の、どこかもぎ取られた心の裂け目が理解出来たのだろうか。

父の影はどこにもなかった。私には父のことを母に尋ねた記憶がない。尋ねてはいけなひと一人で嘔み殺してしまっただけ、それとも、生まれた時から存在しない父を、意識さえしなかったのか、もう憶い出せない。

私は母によく似ていた。母も私と同じような、滑らかな小麦色の肌をしていたし、彫りの深い整った顔立ちだった。だが、中学生、高校生と背丈がのびるにつれて、私の容貌ははっきりと異国の血を際立たせはじめていた。



どれ程敏腕のデザイナーが作った服を着ても、インドの婦人がまとうサリー程には似合わないかったと思う。私は鏡の中の自分を、長い時間見つめることがよくあった。

癖のない髪を思い切り強く後で束ね、母のイヤリングをつけたことがある。スリッパの紐を外して青いカーテンをサリーに似せて身にとった。私は自分の姿に息をのんだ。異国の血がしづもっている大きな目や、頬の線を、自分でも美しいと思いがちながら、打ちのめされた。不思議な興奮にゆすられ、私は母の鏡台を開け、アイシャドウをまぶたに塗り、くつきりと唇を染めた。部屋は青葉の影でよどんでいた。沼のような青い鏡の中に、一人の異国の少女が立っていた。

あの頃私は競技部の上級生達に、よく呼び出された。

彼女達は、自分より背の高い下級生の私を、憎しみこめてにらみつけた。

「態度が大きいの。何様のつもりなの？」

私は返事もせず、平然と彼女達を見下した。

「生意氣だったらありやしない」

私の背後で、何時も私につきまといっている女の子達が、おろおろしているのがよくわかった。私は少しも動揺しなかった。何時も男の子達に抱え引っぱられた私には、

7.7.

こんなことは何でもなかった。私にはわかっていて。彼女達をつき動かしている私への憎しみは、男の子達と同じものだといふことが――彼女達にしろ、男の子達にしろ、自分でも、自分をつき動かすものの正体がわかっていないのだ――。

小さな虫を、羽をもぎ、足を一本一本、引



きちぎるように、何かが私への憎しみと嫌悪をあおるのだ。肌の色が違うことが、何故、彼等を残酷な思いにつき落とすのか。私にだってわからない。

上級生達は返事もしない私に一そう憎しみをかりたてられる風だった。だが、顔を上に向けて怒る姿勢には、自分でもうんざりするの、怒りながら引き上げるのが常だった。

「何て人達——」

同級の女の子達はそろって着さめていた。まるまると柔らかな身体をした女の子達。どの子もまるきり勉強をしない。何時も私にすり寄り、媚びるようにつきまとって離れない。彼女達は私が露程の友情も持たなかったこと、友情どころか軽蔑さえしていたことを、気づきもしなかった。

私は一体誰の子なのだろう。そして、この国の血が、私の身体を流れているのだろう。母は若い頃、神戸で小さな商社に勤めていたのだと友子おばさんが教えてくれたことがある。それ以上のどんな話も友子おばさんは私に話さなかったし、母も又、父について、何一つ話そうとはしなかった。父の話を、もし母が話そうとしたら、私は顔を振って逃げ出したかも知れない。時として、私を生み、たった一人で育てた母に美しいものを空想したこともあった。母の愛の結果が私だったとしたら、私は自分を押しひしぐ冷たい闇から逃れることが出来ると思った。だが母は父を隠しとおした。そしてそうすることで、母が背負っている闇に、私まで引きずりこんだ。

「東京に行くわ」

私は母に言った。

「大学へ進むんじゃないかったの？」

「働くわ。一人で——」

母は暗い目で私を見た。

「もう沢山。東京に行くわ。知った人が一人も居ない所に行くわ。誰一人知った人の居ない所で思いきりのびのび生きるわ」

私は勝ち誇ったように言い放った。

「私みたいな混血児が居なくなったら、お母さんは自由でしょ。インド人のお妾なんて言う人誰も居なくなるわ。一人になっていい人見つけなさい。いい人見つけて幸せになつてよ」

母は凍ったように表情を動かさなかった。それが私を荒々しく煽った。

「インド人、インド人っていじめられるの、もう沢山。石投げられて頭に怪我したのお母さん知らないでしょう。五年生の時よ。三針縫ったわ。でも家の前で包帯取っちゃった。ほら禿になつてる」

はじめて母は表情を崩した。私は自分の言葉に興奮し、押さえようもなくなっていた。

「もうこのあたりでお母さん、自由になりなさい。人並みに幸せになつてよ。私みたいな知らない子供は捨てちゃいなさい」

あの時母はどんなに傷ついただろう。どれ程鋭く、針のように尖って母を傷つけても、傷つけ足りない気がした。母を傷つける言葉で、私は自分の心も裂いていた。

自分の心もザクザクとひび割れながら、同時に母が気弱く涙を見せてくれるのを、ぼんやり期待していた。だが母は固い表情を、曇らせもしなかった。

「いい勤め先があるの？」

私は驚いて母を見た。

「先生に頼んでおくことね。いい勤め先を——。服を作らなくっちゃ」

物憂そうに母はそう言つて外を見た。

窓が青い。

冴え冴えと青さが凍りつき、そこだけまるで水底のように見える。星が出ているのだろうか。星が窓をこれ程青くしているのだろうか。頼りない、ほんのひとかけらの光りが、何百年もかかってここに届いたなどと、どうして考えることが出来るだろう。考えるだけで身体中が

透明になってしまふような、そんな長い時間を、私は想像さえ出来ない。だが光りが通って来た虚空ならわかる。その虚空の恐ろしい静寂ならわかる。それが私を縛る。疼くように切なく、私をたぐり寄せる。ひとかけらの明りも、音もない、真暗な虚空——。隕石が飛び交い、毀れ、錆びつき、無残な残骸と化した衛星のかけらが、音もたてずに廻りつづける闇の空間——。それが私を引きつける。



やがて夜  
があけるだ  
ろう。窓が  
この青さと  
一枚、一枚  
脱いで行っ  
て、明るさ  
が部屋の中  
を何もかも  
むき出しに  
した時、私  
は狂わずに  
いられるだ  
ろうか。二  
人で過した  
時間のいろ  
んな断片  
を、今なら  
洋は、持っ  
ている。  
横たわる  
石のように  
闇の底に沈  
んでいるけ  
れど、私に  
は洋の顔が

わかる。洋はまだ私が何十回も見つめたとおりの、子供のような寝顔をしているに違いない。だが、太陽がのぼって、この部屋に真昼の白さが戻った時、洋はどんなものを私に見せるのだろうか。始めて事務所に顔を出した時の、気弱そうな顔に似ているだろうか。それともチーフの説明に、うん、うんとうなづいている時と同じ表情をしているのだろうか。それらを死はどんな色に塗りこめたのだろう。それはもう私の知らない洋だ。それは私と一緒にでない時——私とは別の世界に生きていた時の洋に違いない。私には見せなかった。洋のほんとうの顔がきつとそこにあるのだ。

洋は何時もどこか頼りない様子をしていた。始めて事務所に顔を出した時、洋はおどおどして、私と同年だというのに、二つも三つも年下の青年に私は見えた。

「あのう田賀さんはおいでになりますか？」

「今、出かけています」

計算機を操っていた私は顔も上げずにつっけんどんに答えた。

「何時頃帰られるでしょうか」

「何時頃か、わかる？」

私は隣席の幸子に尋ねた。

「わかる筈ないじゃない？ あの人鉄砲玉だもの」

彼は顔を赤くした。うつ向き、身体を揺すった。

「何か用事なの？」

「田賀さんに一時に来るように言われたから」

「ああアルバイトなのね。前の人の代りね。お友達？」

彼の——

「先輩です」

「どっちが？」

思わず尋ねて私は吹き出した。どう見たって彼の方が二つも三つも年下に見える。彼は又顔を赤くした。かすかに汗の匂いがした。

田賀が帰るのを彼はじっと坐って待っていた。背筋を伸ばし、両方の目を閉じ、まるで座禪を組んでいるように動かない。その姿勢を彼は田賀が帰るまで崩さなかった。

私が勤めている家具会社の宣伝用写真を撮影する田賀の助手。そういうば聞こえはいいが、そのための家具運び——それが洋の仕事だった。製品を取めたデパートの家具売場に応接セットを並べ、インテリヤを配置し、田賀の命令どおりにライトを当てる。それはかなりの重労働だったし、おまけに凝り性の田賀は何度も家具を並びかえさせたり、撮影にも時間をかける。学生のアルバイトを使つたが誰も三カ月とはつづかなかつた。その仕事を洋は黙々と一年つづけた。真面目なだけが取得といつたかつこうで、従順に働くのだが、仕事の要領はお世辞にも良いとは言えなかつた。短気な田賀はそんな洋を容赦なくどなりつける。田賀の怒声の聞こえない日はなかつた。

「田賀さん、少しきびしすぎるわよ。可哀そうよ。又辞めちゃつたら困るのはあんたよ」

幸子が或る日田賀につつかかつた。

「聞いているこちらまで気分が悪くなるわ、朝っぱらからどなり散らして、少しは考えてよ」

田賀は当惑した様子で返事をしなかつた。

「うちは商売ですからね。お客様に聞こえたらどうするのよ」

「すみません」

その時洋が言った。

「僕がもたもたするから、すみません」

幸子は驚いて洋を見返つた。

「あんたが謝ることないわよ」

洋は長身をごめるようにうつ向いていた。

夏休みを帰省せずに洋は働いた。

「今月はうんと入っているよ」

給料日、部長が笑いながら給料袋を洋に渡した。彼はまるで卒業証書を受取るように丁寧に頭を下げてそれを受取つた。

「おつ、厚いじゃないか」

田賀がのぞきこんだ。袋を開けるなり洋は笑顔になつた。

「わあ、主任、飲みに行きましょう。今夜は僕におらせて下さい」

洋がはしゃいでそう言つた。

「おい、おい、無理するなよ」

「今夜はおこらせて下さい。部長さんも、大原さん達も一緒にどうですか」

「おこる、おこるってあの子、バーの飲み代幾ら位かわかつているのかしらねえ」

幸子が私に耳打ちして笑ひだした。結局部屋全員が部長の行きつけのバーで飲むことになった。

何時も口の重い洋が、アルコールのせいかよくしゃべつた。時々方言が混つた。祖母の住む村の老人達が話す言葉にどこか似ていた。バー全体を湿りを帯びた光が包んでいた。酔いが頭の芯を溶かしはじめ、光りが時々陽炎のように揺れた。

「君は実にうまそうに飲むんだね」

不意に部長が肩を押えた。彼は私の隣に腰をおろした。幸子は洋の方に身体をねち向けるようにして話している。田賀と洋と幸子と、三人は時々はじけるように笑っている。

「事務所で見るとは別人のようだ」

私は黙つて星のようなチョコレートをつまんだ。

「何だか吸いこまれそうになる」

ママが前に立つた。

「お知り合い？部長さんも隅に置けないわ」

「おい、おい。うちの女の子だよ」

ママが驚いて私を見た。

「本当なの？勿体ないわ。この人一流のナイト・クラブに出してみなさい。きっとナンバー・ワンになるわ。きっとそうだよ」

バーのほの暗い光線の中では、私の浅黒い肌と、線の強い顔立ちが、外人の女のように陰影を持つに違いない。

「きれいな方ね、凄いいたい——」

ママはほんとうにうっとり私を見た。悪い気持じゃない。私はグラスをあげた。

(つづく)



# ★神戸っ子トラベルコーナー

★スキーツアーIN赤倉

日程／2月17日・20日  
費用／¥29,800  
宿泊／赤倉ニールホテル(妙高高原)

募集人員／50名

集合場所／8:30 P.M.三宮駅旅行センター

行程／17日三宮21:28分発「ちくま3号」(車中泊)→長野・妙高高原(2泊)→20日15:30直江津発「雷鳥3号」→三宮22:16分着  
スキースクール1日¥2,000  
貸スキー3日間¥5,500  
お問合せ、お申込みは三宮駅旅行センター ☎2210190

★シンガポール4日間  
出発日／3月31日まで毎日  
費用／¥115,000  
大阪発着、当地自由行動  
オプショナルツアー／ジョホールバルツアー ¥7,000、セン

トサアイランドツアー ¥7,000  
ディナーショー ¥8,000  
ホテル／アポロホテルクラス

★ハワイ6日間  
出発日／2月13日  
費用／2月 ¥173,000、3月 ¥193,000  
観光ホテル付  
ミールクーポン ¥28,000  
朝食4回、夕食2回  
オプショナルツアーもあり

★香港4日間  
出発日／毎日  
費用／¥79,000  
お申込み、お問合せはトップナッチ ☎24212695  
★コートダジュールからルネッサンスへのロマン  
日程／3月30日・4月9日  
費用／¥473,000  
訪問都市マルセイユ・カンヌ・ニス・モナコ・フロレンス・ベ

ニス・ミラノ・コモ



ニースのカーニバル

お問合せ、お申込みは大丸トラベルサロン(神戸大丸6F)  
☎3318121 担当／大畑  
★パリ8日間  
出発日／2月28日まで、3月1日  
3月31日(土曜日を除く毎日)  
費用／¥238,000(3月発は ¥244,000)  
★ハワイ6日間  
出発日／2月13日の毎日  
費用／2月 ¥175,000(但

★最近、神戸っ子を読んでいるといういろいろなページにプレゼントコーナーがあるので、いつも見逃しちゃうんとスミからスミまで目をこらすようになりましたが、ハガキ代にお金がかかるんですよね。その前、ぜひ見たかった映画「E.T.」の試写会の券があたり、有難く見に行かせていただきました。異星人E.T.の姿を見ても、大人なら気持ち悪いとかつかまえて研究しようとかいう考えが浮かばないだろうと思うのに、子供がなんなんとも純粋に接するところがなんとも感激してしまいました。久しぶりに気に入った映画に出合えて、友人に会うたびにあの映画は絶対見たらいいよって勧めています。1月号をめぐっていたら、カメヤよりE.T.、人形をプレゼントというのが目に入ったので、早速応募しようと思

## talk and talk



<神戸っ子愛読者サロン>

★そぼは好きの息子が、「お父さん、ドライブがてらに丹波篠山へ行く」といい、これ聞いていた家内も「ウン、こりゃいいワ、篠山へ行くこう」と同調。小生、やや不審に思いながら、雨のそぼ降る有馬街道を北へ向けて、ボンコツ自動車をとろがしっていた。

篠山へ着いたのが、丁度、昼ごろだった。早速、息子が「そぼ食べよう」という。小生「篠山で、そぼのうまいところなんかある筈ない。出石と勘違いしてるんと違うか」と言うのと、二人とも「あっ、そうや。そんな今から出石へ行って」「そんな遠いとこイヤヤ」。結局、その辺で「うどん」を食べた。近くを散歩していると、和風の造りの綺麗な建物があった。近づいてよく見ると、「篠山歴史美術館」とある。旧の篠山簡易裁判所を改造したもので、元の姿を生かした、小さざりしたものである。200坪払って名品と城主・青山家伝来の宝物が、ずらりと展示されている。なかなか見えたのがある美術館で、一見の価値があると思う。

▲垂水・別野清文V

し7・13・14・21・27・28日発は ¥195,000(3月 ¥195,000(但し)8・14・21・22・28・29日発は ¥215,000)  
7日間コース、8日間コース各 ¥5,000、¥10,000、000加算  
ホテル／バシフィックビーク、ミラマ・ワイキキリゾートクラス、お問合せ、お申込みは神戸っ子トラベルコーナー  
☎33122246  
★83年夏沖縄、平和と文化の旅  
期間／8月14日・19日  
航海／¥65,000より  
航空／外国客船「ニユー」とびあ、1万1000船  
神戸・出港・悪名島海上慰霊祭・那覇・終日航海・神戸入港  
行事・映画対馬丸上映、大城立裕氏講演、交流バーレー、南部戦跡めぐりの塔めぐり、アニメ教室  
星屋教室  
募集、4月末、定員締切  
お問合せ、お申込みは神戸市中央区北長狭通4-3-13兵庫県映画センター ☎33116100

いまず。 ▲東灘区・涼子V  
★この度はサントリイ・地域文化賞の受賞おめでとうございます。20余年間、つとつと地道に活動を続けてこられたことが、認められたわけで大変喜ばしいことと思います。私もつとつと童話を書き続けていますが、続けることの大切さを改めて知った次第です。

★先日、元町の「二つ茶屋」へ、干菓子を買に行きました。へちまきれいな和菓子のいろいろ。その隣のガラスケースの上には「神戸っ子」の本があり、思わず手が出しました。いろんなお店の紹介、神戸に住んでいるがまだ知らないうちの所が多いのびくりに、アイスクリームがおいしいと聞いているハッピー、とても身近に感じる一冊でした。

▲灘区／大和関美V





快適な住まいへのインフォメーションNo.8

### 住まいの社会性——

私たちは、これからの時代、ビジネスとの関わりを大切にすべきだと考えています。

仕事上の客を家に招き、もてなし、時には泊める——このような傾向の高まりに伴い、従来、住まいが関わってきた親類や友人等の「内輪の社会」に、今、主人を通しての「ビジネスの社会」が加わりつつあります。具体的には、客用の寝室やバスルームはもとより、プロの料理人による本格的な料理も可能な充実したキッチンやフォーマルとファミリーの2つのリビングを設ける等々、客と家族、それぞれのプライバシーを守った、小さなホテルとしての機能が求められてきています。私たちは、こうした「住まいが担う社会性」の変化に着目。これからの住まい創りの大切なポイントのひとつと考えています。

快適さを支える部分にこそ注目していただきたい——ダイヤシステムハウジングは自信をもって住まいをお届けています。



**ダイヤ システム ハウジング 神戸**

神戸市中央区磯辺通4丁目2-20(神戸ビル401) ☎(078)232-3281  
夙川モデルハウス/西宮市種/池町(夙川住宅公園内) ☎(0798)72-4041  
千里モデルハウス/千里万博公園(千里住宅公園内) ☎(06)877-2718

本社/ダイヤ システム ハウジング株式会社  
尼崎市昭和南通3-1(第2松本ビル) ☎(06)413-2551代



これから、住まいも  
ビジネスの舞台になる。



募集中!!

始めてみませんか？

● 剣道、杖道、居合道、柔道、空手道、合気道、少林寺拳法、太極拳

● ヨガ、クラシックバレエ、ミニバスケット、親子体操、幼児体操、婦人体操、パトントワーリング、小学生体操、ジャズダンス

お問い合わせ・お申込みは

**☎078 (841) 1084**

神戸市灘区新在家北町2丁目  
駐車場 (100台) あり



ま い あ が れ ス ポ ー ツ ご こ ろ

# SPORTS CLUB ROKKO

## 六甲体育馆